

【祝】姉妹都市提携35周年 取り組み企画



4年ぶりの開催で賑わう
2023年5月21日（日）、香川県小豆島町で、オリーブマラソン全国大会が4年ぶりに開催された。全国から約3000人が参加し、ハーフ、10キロの2コースに分かれて疾走した。小豆島プロジェクトは、茨木市と小豆島町の姉妹都市提携35周年をお祝いして、運営のボランティアと市民ランナー一部のコーディネートをを行った。

小豆島プロジェクト活動報告 2023小豆島オリーブ マラソン全国大会 編

文責：
小林史門

運営ボランティアは、ゴミ箱の作成とランナーの荷物管理を行った。小豆島島民は島の環境やゴミに対する意識が高い。こうした島民の高い意識は「世界の持続可能な観光地TOP100選」に2年連続で選ばれている理由でもある。当日は10種類のゴミ箱を用意し、マラソン開催中に出たゴミの分別を行った。また、島の方々と一緒になって行ったボランティア活動は、島民の仲間入りを目指す大切な時間ともなった。

**運営ボランティアで
島の環境・ゴミ意識を体感**



夢叶う 誇らしい気持ちに

両地域の首長と 写真撮影

開会式終了後に、両首長との写真撮影を行うことが出来た。特に、小豆島町の大江町長は1期生の先輩方がお世話になった方である。プロジェクトとしては7年越しの再会になった。大江町長は、先輩方の想いを継承しながら、現在まで活動が続いている事に対して、とても嬉しそうだった。



小豆島町長（左から3番目）/茨木市長（右から2番目）

小豆島プロジェクトとともに、姉妹都市提携35周年のお祝いでオリーブマラソンに参加した茨木市民ランナーがいる。茨木コモンズの赤田裕明さんである。(写真 右)



赤田さんは当プロジェクトの姉妹都市ランチ企画で大変お世話になっている。今回、プロジェクトメンバーからの誘いに応えてくださった。当日に向け、仕事終わりにウォーキングに励んだとの事。10キロの部に出場し見事完走した。

小豆島プロジェクトの 想いを胸に走る茨木市民

日頃の感謝の気持ちも込めて赤田さんへ用意したハレ舞台は「選手宣誓」。姉妹都市交流をさらに活性化させる意味も込めてお願いをした。実施後には、小豆島町のオリーブ女王から花束を頂き、まさに姉妹都市交流の象徴となる時間が流れていた。



プロジェクトメンバーと巡る小豆島

SNSで見えていた場所へ

姉妹都市ランチ企画で「鶴醬」を使用してから、赤田さんが行きたかったヤマロク醤油。普段はインスタグラムで見えていた木桶の見学や醤油の味比べを体験。木桶の大きさや香り、味の違いなど、終始、驚きと興奮でいっぱいだった。



茨木市民へ 小豆島の魅力伝える

オリーブマラソン前日から小豆島へ向かい、赤田さんと小豆島を巡った。小豆島で行きたい所を巡り、美味しい食べ物を紹介しながらの島巡りはあつという間の時間だった。



茨木市と小豆島町の共通点

神戸港からの玄関口である坂手港にある「スター・アンガー」と南茨木駅前にある「サン・チャイルド」は茨木市出身の現代美術家のヤノベケンジの作品である。

【編集後記】

両地域の首長との写真撮影を行えた時、ものすごく誇らしい気持ちになった。特に、僕と小豆島町長は初対面である。しかし、先輩方がお世話になっていたおかげで、僕の存在は知らなくても、僕たちの存在は知って頂いていた。オリーブマラソンには、「姉妹都市提携35周年をお祝いしたい。」という気持ち一心で参加を決めた。どうやら、物事には「繋がり」や「きっかけ」が大切だ。様々なきっかけに出会いながら、小豆島プロジェクトはさらに両地域を繋いでいく。